

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500062		
法人名	新正クリーンサービス		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームみなみ		
所在地	宮古島市平良字下里3107-364		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるよう援助する。衣食住はもちろん、自分のできる場所は生かし、できないところは職員がサポートする。そのかわりの中で相互に助け合い、家庭的な雰囲気でも過ごせるような雰囲気を作っていく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4795500042-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年2月12日		

近隣の小学校の児童生との交流もあり地域との関わりあいについて恵まれた環境にある。洗濯物のたみの参加の促しや、前庭での野菜作りなど入居者の状況に合わせた生活が続けられるように心がけている。スプリンクラーの設置も行われており、安全に配慮した事業所環境となっている。外出支援も昔耕していた畑にドライブがてら出かけるなど、利用者の細かい希望に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年3月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や職員がいつでも見える場所に目の高さに合わせ理念を掲示している。月一回のミーティングでも理念について話し合っている。	月1回の職員全体会議の場で理念について確認し、職員全体の共有化を図っている。新入職員には施設長自らが新人教育の場で研修を行い徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の敬老会、運動会などにできるだけ参加し、交流を深めている。	地域の敬老会等へ積極的に参加をしている。近隣の小学校児童の歌唱慰問もあり入居者の楽しみとなっており、交流の場を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などを利用しながら地域の人々に向け発信しており、適宜利用者も交え意見を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(別紙)を2か月に一回開催し、適宜情報を交換し意見を求め協力体制を作っている。写真などを活用し、日々の交流の様子や取組の様子を紹介している。	2か月に1度の運営推進会議を行っており、行政や自治会からの出席もあるが、会議では現状報告の内容にとどまっている。	運送推進会議の本来の目的である、サービス評価と運営推進会議を結びつけ、事業所の取組内容や改善課題について委員の方の多様な意見が出る場になるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回、ケースワーカーに状況を報告している。また上記運営推進会議にて、介護長寿課より定期的に出席頂き、情報交換している。	月1回、活動内容などについて報告書などの媒体を介さずに、市のケースワーカーに現状を電話で報告するにとどまっている。	活動報告書等を持参し、サービスの現状について報告するなど、市との連携を図るよう取り組むことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のその日の気分の状態を考え、見守りや話し合いを徹底しているため、施錠はしていない。4点柵につき職員間で話し合い、使用しない介護に努めている。	身体拘束の対象となる入居者はいない現状であるが、身体拘束をしないケアのため事業所内の研修を年1回定期的に行って職員の意識を高めている。	

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	月一回の職員会議で高齢者虐待防止については話し合っている。また内部研修でも取り上げ奉仕に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回権利擁護の方と面談を行っている。また文書などで職員への理解を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族と面談を行い、十分な説明や情報提供を実施し双方の理解及び合意のもとで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ご家族が訪問する機会(各月支払い、面会時、誕生会参加等)の折に面談し本人を交えて報告、相談を行うようにし、運営に反映させている。	利用者からの意見の吸い上げは、個別外出支援や入浴サービス時のプライベートの機会をとらえ、自然な形で意見が出るように心がけている。 職員で共有すべき意見については、その都度朝のミーティングで周知し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員ミーティングの機会を設け、情報の共有や利用者の介護状態の把握、健康状態改善に役立てている。またご家族からの要望も反映させている。	管理者は、職員の意見が出やすい環境作りに心がけている。意見が出ない職員には管理者から積極的に声掛けして、職員の悩みや問題点について聞くようにしている。勤務体制については主任が行っているものを問題ないか管理者は再度確認しながら心配りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意見を反映させ改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力及び適正に基づき適宜研修をしている。(別紙)		

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期にはあるが、グループホームを相互に訪問し、職員も交流を図っている。以前利用者だった方と病院受診時再会し、こちらから訪問し再度交流した事例もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に面談し、適宜思いや情報交換に努めている。不安の受け止めや傾聴に関しても、職員の朝のミーティングで共有し周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、ご本人が困っていること、できることやしたいことを施設側とすり合わせを行い、対応している。また話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応についても、情報交換することで見極め、互いの協力体制を確認し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一年の節目ごとに行事を行い、同じ時間を過ごしている。誕生日の写真や家族の訪問時の写真などを飾り、見えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療受診の際、家族にご協力いただき本人に関する情報を共有し、受診している。食指不良、ケガの完治まで協力し合った事例あり。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母の日、幼稚園交流会など、大きなレクリエーションの際は必ずご家族に声掛けして、訪問していただける機会としている。	近隣からの入居者が多いことから、昔耕作をしていた畑などが近くにあり、行ってみたいという希望者にはドライブがてら訪れるようにしている。また、転居した仲間に会いたいとの希望もあり、送迎の支援を行い再会の機会を作るなど細かい要望に対応している。	

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族という認識を持てるようにして、お互いが支えあえる関係づくりができるようにする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	商店、病院受診などであったときは近況を聞き相談に乗ったり面会に行ったりしている。実際に多施設に面会に行き、旧交を温めたりということもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談があるときは面談したり本人の個室で傾聴し相談に乗ったりすることも日常では見られ、改善に向けて検討した例もある。	本人の意向の把握のため、普段からの見守り観察に注意を払いながら利用者の意向の把握に努めている。職員からの気づきについては業務日誌に記録し引き継ぎを確実にし、結果についても一目でわかるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のケアマネのアセスメントやご家族及び本人と日常で接して情報を本人から収集し、日々役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一時間に2回から3回くらいは利用者を確認し声掛けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日の気づきで本人のケアを日々更新、改善に努めている。変化があれば常に対応している。	定期的なモニタリングを行っているが、そのほかに月1回の全体会議において個々の入居者の変化や気づきをまとめて一覧表にし、職員全体の意見を参考にしながら介護計画の見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の気づきで本人のケアを日々更新、改善に努めている。変化があれば常に対応している。		

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の突発的な要求にも、常に柔軟に対応している。(病院、外出、レクレーション等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に小学校、幼稚園があるため交流して写真を撮り、関係を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医は基本的に変えず、継続して受診をしている。転院、入院にも対応している。	1名を除き、かかりつけ医の利用が継続しており受診支援を事業所が全部行っている。受診記録は記録ノートに記して職員全員が一見して分かるようになっている。月2回協力医の定期往診が行われている。家族には来所持や電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他の病院と提携し、訪問診療等を受けている。疾病悪化の際も紹介状を書いてもらい、対応している。急変や判断の難しい場合でも、電話や訪問で対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	上記と併せ、急変や判断の難しい場合でも、電話や訪問で対応可能である。救急搬送の際も各利用者の最低限のデータや症病歴をすぐ持たせられるよう用意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、今のところ他施設、病院へ入院を勧めている状況である。	重度化した入居者が現状ではないため、終末期に向けた医療機関との連携や、対応マニュアルの整備はされていない。	終末期の対応は早期から取りかかり、医療機関への相談や、対応マニュアルの整備、家族との意向確認等、終末期に向けた取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自研修(救急救命、心肺蘇生、AED操作法)を受け研鑽をつんでいる。		

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については2か月に一度行っている。地域住民にも協力を要請し、参加頂き実践力を培っている。	消防署の立ち合いのもと、年2回昼間、夜間を想定して災害訓練を行っている。その他2月に1回事業所内で火災訓練を行っているが、食料品の災害備蓄がされていない。	突然の災害等に備えて食料等の備蓄は大切であり、入居者の状態に合わせた準備を迅速に行って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁やおむつ交換は周囲に配慮し、さりげなく浴室や居室に誘導し交換している。利用者に対する言葉使いも、配慮するよう注意しながら業務についている。適宜内部で情報交換や勉強会も行っている。	利用者からの不満や意見はプライバシーに配慮し個室で聞き取りを行っている。入浴や排泄介助は同性介助を基本とし、できない時は声かけして同意を得ている。職員の不用意な言葉使いに気付いた時は施設長自ら注意する事もあり、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のペースで支援できるようにし、ゆっくりと行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちに合わせて、入浴、睡眠、食事のパターンを変えたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマをしたり、おしゃれができるよう定期的に支援し本人の好みを最大限生かせるよう、各々関係を形成している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、旬のものを取り入れたり、節句や誕生会ではメニューを変え、時々外食できるよう配慮している。また、配膳も手伝って頂いたり、茶わん洗い、下ごしらえもして頂いている。	馴染みのパパイアの煮物やゴーヤーチャンプルー等メニューに取り入れている。ジュースやソーキそば等希望によりメニューを変更したり、又利用者が庭先で採れたねぎ等を纏って食材とする事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各疾病、持病には配慮しながらもカロリーや好みにも配慮している。食後の歯磨きも必ず行なっている。		

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいは習慣化している。歯ブラシが使えない方は、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の個々の行動パターンを読み対応している。認知症でトイレの位置がわからなくなる利用者には適宜声掛けを行い、失禁の際は羞恥心に配慮した対応を行っている。夜間のみポータブルトイレ対応の方もいる。	入居者の1人に居室内で小便をする人がいて、これまでその対応に苦慮してきたが、職員が観察し検討したところ、居室の家具等の模様替えを行ったとたんピタリと止んだ。この経験をもとに、入居者個々の尊厳を守りながらしっかりと見守ることが重要と確認して職員全員で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に配慮し、季節の山菜や葉野菜をメニューに加えている。(ニガナ、ナツパなど)。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望に合わせて実施している。対応困難のときでも工夫して、落ち着いて誘導している。	通院前に必ず入浴を希望する人や、あまり入浴を望まない人には午前、午後の時間帯に関わらずさりげない誘導で入浴を促し、個々人のペースやパターンに合わせた入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスペースを大事にし、居室で休みたい方は居室で対応。適宜たたみの談話室で語る場面もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自が分担して月ごとに対応を決め、全員が個々の薬剤を把握できるよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブが好きな方は職員と一緒に買い物や畑に出かけたり、食事の下ごしらえ、洗濯物ほし、もやしのひげ取りなど本人ができる範囲で今までされてきたことが楽しんでできるようにしている。		

沖縄県(グループホームみなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や法事、教会訪問など本人の好みや信仰にも配慮している。普段は遠く出られない人でも、病院の帰りに立ち寄り、礼拝堂に行くなどの配慮をしている。親族の命日や自宅の仏壇の掃除などは家族と協力して対応できる関係を作っている。	天気のいい日は庭先や近くの道路を散歩したり、ドライブしながらスーパーへ買い物に行ったり、電器屋まで出かける事もある。ひまわり祭りや川満漁港まで出かけたりする。希望により自宅や教会まで案内する事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所としてはお金の預かりはせず権利擁護を利用するか家族が管理している。少額のみ本人が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	沖縄本島在住の家族には本人が職員に電話をする場合もある。手紙を代筆してほしいときは職員が代筆した例もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	喫煙所を設置したり、畳の共有スペースでくつろげるよう工夫している。天窓があり、風通し良くすることもできる。外で動物と遊ぶ利用者もいる。	共用部分を居室が取り囲む間取りとなっており、部屋全体を一覧でき入居者の動きを見守れる環境となっている。また、厨房も共用部分の端にあるため調理をしながら部屋全体を見ることができるため、常にきめ細かい見守りができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を設け交流の機会としている。畳の談話室で職員や職員の家族が交流することもあり、居室のソファで気の合う利用者同士が話していることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使いなれてきた家具や愛着のあるものをもって来てもらい不安感を軽減している。	居室は木のフローアーや畳間など、本人や家族の希望を取り入れている。ベットや衣装タンスは備え付けてあるが、ソファ、3段ボックス、毛布などの寝具類は馴染みの物を持ち込んで使用しており、その人らしい居室作りがされている。希望により入居者どうし居室の移動をして、お互いに心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄、運動ができやすいように配慮しADLが低くても対応できるよう、工夫に努めている。		